



第 110 号

大阪市史跡 龍溪禪師墓所 靈龜山 九島院

〒550-0022 大阪市西区本田3丁目4番18号

TEL 06 (6583) 2725 FAX 06 (6583) 0908

発行所

発行者

第廿六代住職 奥田 穂積 (明勝)

当院は、阪神なんば線で、なんばから7分です。

九島院史の謎に迫るその四

龍溪禪師の出自

九島院開山龍溪禪師の出自について新発見の史料が判りました。龍安寺事務長・学芸員の岩田晃治氏から拙寺の本寺である慶瑞寺に連絡があり、老生も駆けつけました。

龍溪禪師の出自については「父は奥村清三郎で京都の人、母は連歌師三好紹欽の女で、紹欽は管領細川氏の家臣三好家の一族で、細川高国(1484~1531)に仕えたという。」(『日本仏教文化史研究』鷲尾順教著)とだけ判っていました。

龍安寺に『大雲山誌稿』が伝わっています。文政13年(1830)に龍安寺に伝わる全ての史料をかき集めたもので、第27巻に「初諱景琢(龍溪の前名)母紹欽菴主女(むすめ)他・・・父母墓ハ慶瑞寺ニ在リ、清譽浄林信士 元和二丙九月十三日華嶽康春禪尼 慶安四辛卯十一月九日 過去帳有佛母二字側二記ス 小方榮安云ク或(はつきり)とせぬが) 傳エル龍溪ハ元三宅国村ノ子ナリ然レドモ・三宅ノ孫ハ当国丑寅村今猶ホ慶瑞檀家(杉本氏)為リ」との記載があります。

主従をかえ、晴元の武将三好長慶・之康に攻囲され三宅城を退去。さらに長慶が晴元に背くと三宅城を回復したが天文17年(1548)晴元の武将香西元成に攻め落とされ、その後の消息は不明(戦国人名辞典)

高槻市城跡記念館に寄託されている龍溪の元自坊の普門寺由緒書にも「龍溪和尚ノ母ハ紹欽ノ女ナリ・紹欽落髮ノ後妙心寺龜年國師ノ弟子トナル。紹欽初メ子数人アリ男子五人出家二人妙心ノ退蔵院ニ住ス元昌喝食ト名ク・(略)・信長公上洛初テ参内木下藤吉郎 朝廷ノ取持ヲ紹欽ニ頼ム其ノ書翰ヲ退蔵ニ藏ス 紹欽連歌ニ感能ナリ。」との記載があります。

退蔵院は『正法山誌』第一巻に「紹欽は三好の一族で細川高国に仕え、龜年禅愈に帰依し退蔵院(妙心寺塔頭)の保全に大功があり、龜年遷化後の退蔵院院主は紹欽の子の鉄鏡永照がなり、彼が早死にすると弟が出家し北高元倡(慶安四年七月十日八十四歳で示寂)が継いだ。紹退蔵院『古本過去帳』の注記には、紹欽は敬堂紹欽菴主と記され、『妙心寺文書』には天正十年の「当寺公事之帳」によると十四屋の屋号を持つ有力な商人であると推察できる。母方の出自はほぼ解明されましたが、父方の奥村清三郎云々



については未だ不明で『大雲山誌稿』第二十七巻の「・・・龍溪は元三宅国村ノ子ナリト慶瑞檀家小方榮安方或(はつきり)とせぬが) 傳エテイル」との一文のみが手掛かりだ。後日の解明を待つのみ。今回は龍溪禪師父母の墓と過去帳の確認が主たる目的であり、父母の詳細確認は出来なかつた。

父母の墓は当日出席の6人で無縁塔を刻字不明の小さな一基五輪塔を中心に探したが発見に至らなかつた。過去帳には、元和二丙辰九月清譽浄林居士 開山帝師父と慶安四辛卯十一月 華岳康春禪尼 開山帝師佛母と墨書されていました。墓碑が見当たらない為、位牌堂祠堂の古位牌を探すとことになりましたが、膨大な作業となる為この日は断念しました。拙院にも墓碑の裏面に「第二十二代中島氏父母及各名塔」と刻まれた墓があり、中島省己和尚のご実家の墓と判明し、お寺としても供養してきました。老生の実家の墓も拙院にあり「第二十五代稻原氏父母及各名塔」と刻んでいます。

東海道五十三次漢詩の旅

○白須賀(潮見坂)32

潮見坂登遙望
洋洋大海遠州灘
秋晴一點雲影
画出富峰瞳目看

(大意) 潮見坂を上り遙かに眺めると眼下に広大な遠州灘が見える。雲の影ひとつない秋晴れの空に霊峰富士がくつきり浮かび上がり目を見張る。

白須賀宿は眺望絶景で有名な「潮見坂」を登ったところにある。宝永4年(一七〇七)の大地震・津波で坂の上に移転した。眼下に広大な遠州灘を見下ろせ、街道を下ってきた旅人が初めて太平洋と富士山が見え旅人の心を掴んだ。武田勝頼を滅ぼした信長が尾張に帰る途中、ここで家康が茶室を造り信長をもてなした。

○石部(登三上山)51

削立弧峯三上山
天風吹渡一春閑
俯看湖面明如鏡
懷古傳承暫時間

(大意) 三上山(近江富士)は、独り琵琶湖の東にすくつと聳え、大空を風が吹きわたりのどかな春景色だ。山頂から湖面を見下ろせば鏡のように明るく光っている。暫しの間近江富士にまつわる伝承に思いを寄せた。

江戸に向かう旅人が最初に泊まる宿場。三上山(432m)は近江富士と讃えられ紫式部・芭蕉など多くの歌人を魅了した。「打出でて三上の山を詠れば雪こそなけれ富士のあけぼの」(式部)藤原秀郷(俵藤太)大ムカデ退治伝承がある。

○草津(矢橋渡し口)52

渺茫湖上白帆浮
迴眺連山萬項秋
剪剪冷風吹不盡
矢橋渡口往還舟

(大意) 遠く遙かに広がる琵琶湖に渡し船の白帆が見える。比良の連山を遠く眺めると何処までも続く秋景色。薄ら寒い冷たい風が吹きやまず、矢橋の渡船場には往來の舟がひっきりなし

草津宿は中山道と東海道が交わる宿場。現存する最大の本陣と姥が餅が名物、近江百景「矢橋の帰帆」で

知られる景勝地。比良おろし(比良八荒)で船が出ず、急ぐなら矢橋舟でなく陸路で行けと「急がば回れ瀬田の長橋」と里謡あり。

○大津(義仲寺)53

蟲聲滿地湖南秋
雁字成行自可愁
義仲寺庭沈沈靜
芭翁墓畔遠鐘微

(大意) 虫の音が地面一面に聞こえる湖南の秋。雁の隊列が飛び去り自然と愁いがおきる。義仲寺は静かでひっそりしている。芭蕉の墓に三井寺の鐘が微かに聞こえる。

大津宿は経済・交通の要衝で栄え、瀬田の唐橋は壬申の乱以降多くの合戦場だった。「木曾殿と背中合わせの寒さかな」(門人又玄)義仲寺には粟津で討たれた源義仲の墓あり、芭蕉は元禄7年(1694)大坂で客死したが遺言でこの寺に葬られた。

○京三条大橋 終

橋畔三條遙拜皇
東奔西走說勤王
維新討幕爲先驅
誰識高山彦九郎

(大意) 三条大橋東詰め御所の天皇を遥拝し、東奔西走して勤王を説き討幕維新の先駆をなす。烈士高山彦九郎を誰が知っているようか

東海道五十三次の終点・三条大橋。「京の七口」栗田口付近には刑場があり明智光秀が晒された。付近の職上という地名は罪人を蹴り上げて連行した事に由来。見送るときは東詰め、出迎へは西詰。東詰めには勤皇の志士・高山彦九郎の御所遥拝の土下座像がある。

※徳川家康は、秀吉が淀川左岸に築かせた「文祿堤」を土台にして大坂高麗橋まで京街道を整備したので、東海道は五十七次となる。

なお、大津の宿から追分を南西に向かつて山科盆地を通り伏見宿へ。伏見・淀・枚方・守口の京街道4宿は、淀川の舟運により人や物資の移動が活発に行われ、出舟、入船で繁盛した。次回京街道を下り大坂まで続く。



京阪電車中之島線に延伸計画。九条駅に接続。2037年までに開業予定。

『九島院マルシェ』

5/17(日)12時～16時

5回目の開催となる『九島院マルシェ』。今回も昨年同様に皆さまと楽しい一日にしたいと思っています。そこでお願ひがあります。

大募集：バザー品

自宅に眠っている食料品以外の品物(中古は不可)を九島院にご提供下さい。九島院マルシェにてバザーコーナーを設置します。どうぞ、ご協力お願ひします。

マルシェ



坐禅風景

大晦日に恒例の『坐禅と除夜の鐘』を開催しました。過ごしやすい天気の中、坐禅に20名以上、除夜の鐘に約80名の参加者と共に新年を迎えることが出来て大変嬉しく思っています。今年も外国人の参加者もいて、賑やかな大晦日でした。ご参加頂いた皆さま、ありがとうございました。改めまして、本年もよろしくお願ひ致します。

(住職)



『坐禅と除夜の鐘』 報告

檀信徒の皆さまへ

九島院のフェイスブック・インスタグラムを作りました！検索してみてくださいね！

行事予定

3/23 山門会 (春のお彼岸法要)
(別紙参照)

3/28 写経会 15時～18時
参加費 千円 (別紙参照)

4/8 花まつりの夕べ(大阪市仏教会)
結成80周年記念大会
於…ホテル日航大阪

4/8 花まつり甘茶接待(西区仏教会)
九条駅前での甘茶の接待です。

5/17 九島院マルシェ&お寺deヨガ
12時～ (別紙参照)

6/27 はじめての坐禅 15時～17時
(別紙参照)

永代供養墓 だいきじぞうそん
大亀地蔵尊
当院が永代に管理供養し、無縁仏とならないお墓で、道族・ご家族にも安心して頂けます。
宗首・宗派は問いません

- ご縁のある方のご遺骨をお預かりの方
- 墓地を整理してお骨を移したい方
- お墓の継承者がいない方

永代冥加金
一霊30万円/二霊50万円
併せて永代祀堂位牌(2万～6万)が必要となります。(管理料は不要)

黄檗宗(禅) 雲亀山 **九島院**
TEL. 6583-2725 西區本町3丁目4番18号
<http://kyutouin.or.jp>
新規境内墓地もあります

令和8年 年忌早見表

年忌早見表

年忌	寂年	年忌	寂年
1周忌	令和7年	17回忌	平成22年
3回忌	令和6年	25回忌	平成14年
7回忌	令和2年	33回忌	平成6年
13回忌	平成26年	50回忌	昭和52年

黄檗宗雲亀山
九島院公式
LINEアカウント



新年、明けましておめでとうございませう。昨年は念願の龍燈会館2階部分の大規模リフォームを行いました。今後更なる寺院の活用を検討しております。本年も『九島院』の行事案内などはFacebookやInstagramにて行います。改めまして、本年もよろしくお願ひいたします。

新年挨拶

墓地管理費のご納付をお願いします。墓参りの折、郵便振込みでも結構です。

編集後記

▼昨年11月5日に101歳の老生の母親、老人ホームの自室で転倒し鎖骨骨折で痛みがとれるまで特養に短期入所した。

▼昨年は3度転倒し肋骨にひびまで入ったが2度の復活もあった。「年寄りには転んだら寝たつきり」3度目の正直、要介護4特養での生活となり老人ホームの自室は返すことになった。

▼劇作家の寺山修司が「時計の針が前に進むと時間になり、後ろに進むと思いい出になる」と詠んでいる。

▼88歳で老人ホームへ引越し13年。部屋の片づけに家内と2週間通い漸く片付いた。そんなに広くない部屋に物が溢れていた。

▼部屋には母親の思い出が溢れている。もう時間は刻まない。一つ一つの母親の思い出を思い切つて処分し『百歳の終活を』完了した。

(閑栖記)

▼昨年末大晦日、『坐禅と除夜の鐘』を開催。参加の皆さまと共に新年を迎えることが出来て嬉しく感じています。

▼今回は近隣に宿泊の外国人観光客の方々も参加してくれました。自分の英語力のなさに愕然としました。英会話を習おうかと思つた瞬間でした。

▼昨年開催した『九島院マルシェ』。今年も開催が

決定しました。是非、遊びに来て下さい。

▽11月におかやまマラソンと神戸マラソンに参加しました。自己ベスト更新は叶いませんでした。

▽次は2月の大阪マラソンです。次こそ自己ベストを更新できるように練習に励みます。

▽是非、ネットでも沿道でも応援をお願いします。皆様からの応援が私の力になります！

▽いつの間にか今年で50才。年を重ねても進化出来る事が出来ると思えます。

(住職記)

● 金 婚 式 ●

昭和49年茨木市立東中学校に奉職。紹介で妻と出会い一年間の交際を経て結婚した。勤務校では野球部顧問として日祝日もなく出会いもない生活だった。

BBS活動(保護司と虞犯少年との間で「大きな兄ちゃん・姉ちゃん」として接し教導するボランティア活動)の新規立ち上げで老生に声がかかった。その担当の保護司が偶然老生の高校の先輩で妻を紹介してもらった。

三人の子ども授かり、教師の薄給で生活は苦しかったが幸せな毎日だった。お寺の後継者(在家で雲水修行中に弊師が弟子にしていた)が出奔した。長女の婿の老生に義父が「お寺は電話一本自分のものではない。わしが死んで後継者がいないと奥田家はお寺から出ていかねばならぬ、お前が継いでくれるとわしも檀家衆も安心する」と。

昭和52年出家し62年に改姓し奥田家の養子となった。お寺が嫌だった妻はお寺のご本尊に寺に引き戻された。「ボチボチお寺は緊いでおくので、お前は定年まで教師生活に励みなさい」と言っていた義父がまさかのアルツハイマー型認知症になり、定時制高校に転勤し朝のお勤めから月参り定時制高校勤務と“針の穴にラクダを通す”毎日、全く休みのない生活だった。とうとう体力の限界、16年で教壇に別れを告げることとなった。

平成2年退職し九島院住職として、妻と力を合わせ老朽化したボロボロのお寺の復興に取り組んだ。病気の義父や年老いていく義母の面倒や子育て、お寺の坊守として懸命に働いてくれたおかげで、檀信徒の方々のお力添えもあり復興に専念できた。

令和元年の晋山・退山式をもって、寺院の運営を息子夫婦に引き継ぎ、妻と引退犬のお世話をし暮らしている。お互い病気で入院もしたが、何とか50年無事に過ごしてきた。心から妻に感謝している。

『為婦為夫惟佛縁 崎嶇五十喜身全 何如感謝糟糠室 琴瑟相扶任自然』

(大意) 仏さまに導かれ妻となり夫となった 山あり谷あり(崎嶇)の五十年二人揃って健康で迎えられたことを喜ぶ 苦勞を共にしてきた妻(糟糠室)に感謝している これからは夫婦(琴瑟)お互い助け合いのんびり(任自然)過ごそう。



九条から阪神と近鉄を使って神戸・奈良へ！

ご案内

さんもんえ 山門会 (春彼岸法要)

3月23日(月)

午後 1時半 より

※ご先祖供養 宗旨に関係ありません※
ご回向お申込み下さい

法話：未定

墓地管理費のご納付をお願いします。墓参りの折、郵便振込みでも結構です。